

---

# 世界を渡る召喚士

学生ひきこもり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

世界を渡る召喚士

### 【コード】

N3096Z

### 【作者名】

学生ひき二ート

### 【あらすじ】

世界を渡る召喚士が物語る。世界の「変化」を求めて。

・・・この小説は主人公視点でお送りしています。

## 新しい物語

「んで、君が今回応募した理由を聞きましたよか？」

「まあ、これでも結構色んなところに行ったことがあるので、そろそろ別のところに行ってもいい機会かなーと思って」

「なるほどね。うん採用。君の適正に合いそうなところを送るからそこから入って」  
「ども」

俺は目の前にいる奴にそう言われて、そいつの後ろにある扉の中に入ってしまった。

扉の中に入り、外に出ると、そこは何も無い平原だった。

後ろを振り向くと、そこには同じ風景が広がっている。扉なんてこの風景に不釣り合いなものはない。

成功だ。

話に乗るところによると、かなり確率は低いがたまに失敗することもあるらしいので、一安心だ。

俺は、取り敢えず歩き始めた。

さっきの面接は、……正式名称は知らないが、簡単に言えば、「世界を渡るための面接」だ。

世界を渡るといふのは、別に大げさに言っているわけではなく、今

いる世界から別の世界に行くことだ。

各世界には、世界を維持する「均衡」という概念の他に世界を変え  
る「変化」という概念を必要としている。

これはどの世界にでもいる神信深い者からすれば、傲慢と捉えられ  
るかもしれないが、世界というものは人が動かしている。

つまり、この「変化」というものは人によって作られる。

それは、その世界の住人がその世界を変えるのではなく、その世界  
の常識や定義といったものを根本から覆すような者によって引き起  
こされるものだ。

俺は俺たちのようなやつらを「渡り人」と呼んでいる。

渡り人の仕事は至極簡単で、自由に行つた先の世界で過ごすことだ。  
それだけで、世界に大きな変化を生む。

変化はやがて常識や定義となつて、世界に浸透し、世界が腐敗しな  
いように働きかけるのだ。

というわけで、俺は新しい世界へと、たつた今降り立つたのだ。  
ファンタジーな頭の持ち主には羨ましがれるかもしれないが、その  
世界で生きていくのに必要なものは自分で調達しなければならぬ  
し、知識もなく、人脈もなく、雨風をしのぐ家もないのだから、割  
りと来た当初は苦勞する。

俺が担当するような世界は、大抵言語でコミュニケーションを取る  
文化があるところなので、そういうところでは実は苦勞が少ない。  
なぜなら、俺には「共通語力」というものがあるので、俺が何を喋  
ろうと相手にこちらの言葉の意味を伝えることができるからだ。

よつて、当面の目的は、「拠点づくり」と「生活力の確保」である。

「召喚せしは、《タンサクソウサ》」

俺がそう唱えると、目の前の風景に歪みが生じ、その中からウニと  
いう生物のように種類豊かな望遠鏡をハリの代わりに生やしたもの  
が現れる。

「応えしは、我、《タンサクソウサ》」

『それ』はそう応えて、俺の前に浮かび続ける。

「この付近に人がいそうなところを探してくれ」

「了解した」

《タンサクソウサ》はそのまま上空に浮かび上がり、しばらくゆっ  
くりと宙で回転を続け、その後少しして回転を止めた。

「ここより西方に、主が足で三半刻の場所に人の群れを確認した」

「わかった。ご苦労さん。戻っていいぞ」

「了解した」

そう言っつて、そのまま《タンサクソウサ》は霧のように消えていっ  
た。

俺は言われた通りに西に足を進めた。

さっきのは、俺が持つ唯一の能力である「召喚術」。

まあ詳しい説明は、追々するとして。

俺が渡り人として、やってけるのも、この能力があるからだとも言  
える。

この物語は、俺が勝手にこの世界で過ごしていく、なんの変哲もない、他愛のない日記のようなものだ。  
だから、暇なやつが暇な時に適当に読むことを薦める。

さて、新たな俺の物語を始めよう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3096z/>

---

世界を渡る召喚士

2011年12月10日21時47分発行